

<図書館企画展予告>

蔵書票、蔵書印、書き込み：図書館に遺された所有の証

本は、著者の手を離れた後、読者の存在なしには流通しませんが、買ったり、貰ったり、贈ったり、売ったりを繰り返しながら、1冊の本が複数読者の手元に渡ることもしばしばないでしょう。そうして手元に巡ってきた本に、人はしばしば“自分のものである証”を残してきました。或る人は本に美しい紙片を貼り、或る人はユニークな印を押し、また或る人はその本を入手した来歴を細かに記し、そうかと思えばそと自分の名前を書いておくだけの人もいます。図書蒐集に係るこの習慣は、東洋では「蔵書印」として古くは中国王朝時代から、西洋では「蔵書票」として15世紀以降、蔵書家のみならず一般読者の間でも親しまれてきました。

2023年度秋季企画展では、「蔵書票」「蔵書印」「書き込み」に焦点を当て、当館所蔵資料に残されたかつての読者の跡を辿ります。例えば、表紙写真（左）は、堅琴を傍らに置いた女性が柱にもたれて渚を見つめる後ろ姿を写実的に描いた、とても美しい蔵書票になります。見ているだけでも楽しいのですが、上部に「EX LIBRIS」「OSKAR HEY」、右下に小さく「PAUL HEY」と記載され、この蔵書票（ラテン語でEx Libris）が、Oskar Hey（19-20世紀ドイツの古典文献学者）によって貼付されたものであり、弟Paul Hey（同時代ドイツのアーティスト）による作品であることが分かります。表紙写真（右下）は、もう少しデザイン的で、翼の生えた幼児（putto）が本を読んでいる姿に、票主の名前「FRED CURTIS」と、モットー「A goode booke is to me better than golde.」が描かれています。蔵書票には、このように票主のモットーをデザインしているものも多く、絵柄の細部にも象徴的な意味合いを持たせていることがあります。この蔵書票で言えば、puttoはキリスト教で智天使とも呼ばれることがあるため、記載されたモットーとの親和性を感じるデザインとなっています。表紙写真（右上）

には、複数のサインと年代が記載されていますが、このような書き込みは、当該図書の来歴を窺い知るよい手掛かりとなり得ます。最も年代の新しいサイン「A. Gow」とは、ケンブリッジ大学元教授A. S. F. Gow氏のことであり、当館は1979年に氏の旧蔵書を購入していますから、この図書もその際に収集された資料のひとつでしょう。

これらの図書に残された証は、実際に紙の本を手にとって、開いてみなければ、知ることのできない情報かもしれません。本稿でご紹介したものは展示資料のほんの一部です。是非展示室で現物をご覧ください。

岡本 諒子

（高田早苗記念研究図書館担当課／展示委員会）

追伸：もちろん、図書館蔵書へ「蔵書票」「蔵書印」「書き込み」をすることは禁止されていますので、ご注意ください。

▼展示概要

「蔵書票、蔵書印、書き込み：図書館に遺された所有の証」

会期・時間：2023年10月2日（月）～11月9日（木）10:00-18:00

場所：早稲田大学総合学術情報センター2階展示室

閉室日・変則日等の詳細は、図書館Webサイトをご確認ください。



[目次]

P2 <図書館企画展予告>

蔵書票、蔵書印、書き込み：図書館に遺された所有の証

岡本 諒子（高田早苗記念研究図書館担当課／展示委員会）

P3 2023年度中央図書館利用者アンケート調査実施報告

稲葉 直也（資料管理課）

P6 <開催報告> 或る天才詩人の短くも美しき一生

——河田誠一、または結核と戦争の時代における青春展——

桑垣 孝平（高田早苗記念研究図書館担当課／展示委員会）

P8 <新収資料紹介> 平内家旧蔵茶室起こし絵図

高木 理久夫（資料管理課）

P10 <新収資料紹介（電子）>

Slavery and Anti-Slavery: A Transnational Archive, Part III The Institution of Slavery

The Making of Modern Law: Legal Treatises, 1800-1926

田島 英恵（資料管理課）

P12 <早稲田の本棚から> 『武侠世界』創刊号—日本SF

の祖・押川春浪と、学生野球の父・飛田穂洲

長谷川 敦史（戸山図書館担当課長）

P14 ナゾトキゲーム×早稲田大学図書館 2023春Library Week 実施報告

奥村 紘美・中嶋 更紗・蓮沼 明子（利用者支援課）

P15 ～図書館だより～

< Pulsus > 「レファレンス」と図書館スタッフ

鈴木 努（利用者支援課長）

< 図書館日誌 >

< ライブラリー・ウィークのご案内 >